博士論文 要旨

カンボジアの仏教寺院が地域社会の中で果たす機能の諸相について

東京福祉大学大学院　社会福祉学研究科社会福祉学専攻
A19911201　KHOENG　PANHACHARYA

カンボジア人口の８割以上が仏教を信仰しており、その仏教の大部分は上座部仏教である。仏教寺院は、財産を持たない托鉢により生きる出家者と、それを支える在家信徒から成り立っており、出家者と在家信徒は密接に相互依存している。仏教寺院は仏教活動以外の機能として、選挙の投票所、NGO の会合、地域の社会的活動などの各種の行事を行うための集合場所であり、僧侶が中心的な役割を担っている。さらに寺院は、公的機関の補助的な役割として地域社会の弱者である貧困層の子どもと大人、病弱な高齢者をサポートする社会福祉施設の機能を担っている。一方で、小学校や橋の建設などのインフラ整備に積極的に取り組むべきであるという指摘があるが、カンボジアの仏教寺院に関する研究が少ない。そこで本研究では、カンボジアの仏教寺院の出家者との対話を事例研究をしてそれを対象に仏教寺院の現状と地域社会における社会福祉機能の詳細を明らかにすることを目的とした。本研究により、カンボジアの仏教寺院の地域社会の貢献との関連を研究する実践研究に寄与できるものと考える。

キーワード：カンボジア、僧侶、地域社会の貢献